

日本経済新聞

【有識者経済観測】ユーロ圏、不況の出口は 来年は潜在力並み成長 欧州安定メカニズム総裁 クラウス・レグリング氏

2013/7/8付 | 日本経済新聞 朝刊

ユーロ圏は6四半期のマイナス成長。市場もポルトガル不安に揺れた。不振脱出のメドをクラウス・レグリング欧州安定メカニズム(ESM)総裁に聞いた。

1～1.5%見込む

——緊縮財政でユーロ圏は長期不振が続きます。

「緊縮だけが原因と思わない。スペインやアイルランドは過度な建設業依存からの脱却過程だ。ギリシャやポルトガルは名目所得の削減による競争力回復が必要。困難は構造調整から生じている。財政赤字や債務水準が非常に高いギリシャなどは持続成長のために財政再建も欠かせない」

「各国や諸機関の努力の効果が出ている。ユーロ圏崩壊の懸念はなくなった。財政再建によって昨年は成長率の1.5%分が下押しされたが、今年の減速効果はその半分だ。中心予測では年後半に成長が戻り、来年はユーロ圏の潜在力に近い1～1.5%の成長が見込まれる」



——危機は去ったと？

「終わっていないが1年前よりかなり改善した。欧州中央銀行(ECB)の国債購入策が市場の見方を変えたが、他にも多くの理由がある。全南欧諸国で競争力が改善し、経常赤字はほぼ解消、財政赤字は大幅に減った。競争力で3分の2、財政で最低2分の1の調整を終えた。経済連携ルールや財政再建の安定・成長協定も強化し、監督一元化を糸口に銀行同盟も始動した。進展したが、まだ森の中。なお努力が必要だ」

——ポルトガルの政治不安で市場が揺れています。

「事態を懸念する。何が利益か、全政治勢力が認識するよう願う。市場(からの資金調達)への復帰と信頼回復には改革の維持が重要。迷いを克服し、不均衡是正を完遂する決意で投資家を安心させてほしい。財政赤字削減と競争力強化は進展して市場に評価され、成功への出口戦略が見える。ここで痛みを伴う多大な努力の歩みが止まるなら大変残念だ」

問題は金利格差

——単一市場なのに貸出金利の格差が消えません。

「中小企業融資が南欧で非常に弱い。ECBによると金利に域内で2～4%の差がある。経済不振の国の企業が資金調達でより高い負担を迫られる。そのコストを賃下げで埋めると国内総生産はさらに減る。銀行同盟が大切な理由はこの金融問題にある。破綻処理ルールや直接資本注入の合意は非常に良い一歩だ」

——資本注入の準備は。

「ESMの直接注入で政府債務と銀行部門の負の連鎖の分断に寄与できる。単一監督機構が発足して初めて機能するが、ECBはその時期を2014年9月と予測する。ESMはその間に準備し人員を登用する」

——直接注入の具体化に1年も費やしました。

「ユーロ圏には17の民主主義国があり、大事な決定には長時間がかかる。だが緊急ならユーロ圏の決定は迅速だ。2年前、欧州金融安定基金(EFSF)の規模増強は1週間で実現した。市場もそこを理解している」

——日本のアベノミクスにドイツで批判の声も。

「論評したくないが、一点だけ。黒田東彦日銀総裁がデフレから穏当なインフレへ人々の意識転換に成功する有益な展開を願う」

(聞き手は欧州総局編集委員 菅野幹雄)

Klaus Regling 独財務省時代から日本の歴代財務官と親しい。富士登山を熟望。62歳

NIKKEI Copyright © 2013 Nikkei Inc. All rights reserved.

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。